

前までの自記曲線と7月1日の雷雨のさいの自記曲線とくらべてみて、総括的には雷雨活動は前者にくらべ弱いものであると判断して雷雨注意報にふみきれなかった訳である。この点空電度数自記曲線の解釈のし方を著者が誤まったことは認める。

3. あとがき

寒冷前線あるいはスコールラインに伴う線状エコーパターンの移動を予想するにあたっては、若狭湾沖から日本海沿岸に達するまでの1~2時間の追跡結果から、線状エコーに直角成分の速度をみつもって外挿している。このさい弱雨域の南端を基にして速度を求めており、これまでのところ名古屋ふきんへの到達時間にかんしては1~2時間ていどの誤差で予想ができた。この点初期における速度の精度に不安は残っていたが、福井レーダーの設置された現在、福井のレーダー情報により初期の速度を今までより早く確かめることが出来るので、更に精度はあがるものと思われる。

しかし、このエコーパターンの中の個々のセル又は数個のセルからなるエコー群のうち、自分の担当予報域に達するものはどれか、また其がどのように変化するか等を予想しようとは今のところ良い決め手がない。この問題を解決するにはゾンデの観測を空間的にも時間的にも増すか、上層風の詳細は連続観測を基にした研究のつみ

重ねによる結果を待つより他はない。

終りにのぞみ、御助言下さった藤井名古屋気象台長、いろいろ御討論下さった市川予報課長および予報官の方々に厚くお礼を申しあげる。

文献

- 1) 立平良三・深津林, 1963: 寒冷前線のレーダーおよびメソ解析, 気象集誌 Vol. 41, No. 3, 145~157.
- 2) 立平良三・深津林, 1965: 北陸豪雪のレーダー解析, 天気, Vol. 12, No. 10, 1~4.
- 3) Boucher, R.J., 1963: Radar Precipitation Echo Motion and Suggested Prediction Techniques, Proc. 10th Weather Radar Conf. 1~7
- 4) Newton Chester W. and James C. Fankhauser 1964: On the Movements of Convective Storms, with Emphasis on Size Discrimination in Relation to Water-Budget Requirements, Journal of Applied Meteorology Vol. 3. No. 6, 651~668
- 5) 浅田暢彦他2名, 1965: 仙台気象レーダーによる基礎調査(その2)
- 6) 島川甲子三, 1963: レーダーエコーと空電観測による雷雨の研究, 研究時報, Vol. 15, No. 3, 245~253

第24回(13期)常任理事会議事録

日 時: 昭和41年5月6日(金) 1600~1900

出席者: 畠山, 北岡, 正野, 岸保, 神山, 稜庭, 大田
増田, 小平, 須田, 吉野, 安藤各理事および
藤田監事(順序不同)

場 所: 東京管区気象台会議室

議 決

1. 4月分から中島会計委員の手当てを月額2000円増加することを承認する。
2. 昭和40年度の会計決算報告を承認し監査報告とともに全国理事会および総会に提出することを了承する。
3. 昭和41年度予算案は第1項の手当て増額の部分を補正して、全国理事会および総会に提出することを承認する。
4. 松永賞には、小倉義光氏の大気乱流の研究を推せ

んすることを承認する。

5. 総会においては、東大理学部長のあいさつを受けることを承認する。
6. 総会において「学会会議の報告」を議題に追加することを承認する。
7. 日中友好協会からの訪中学術団代表の推せんに、気象学会としても協力するが、これについては将来募金などのことも考えられるので、総会の諒承をえるものとする。
8. 関西支部からの要望書は、これを天気に掲載することを承認する。
9. 14期役員選挙の経費として、選挙管理委員会に、8,800円を追加支給することを承認する。